

令和6年7月11日
道路局企画課



まちぐるみで「道の駅」の魅力を磨こう！
～「道の駅」第3ステージの今後の方向性～

「道の駅」第3ステージ推進委員会では、2020年より進めている「道の駅」第3ステージの実現に向けて、4月から6月にかけて4回の委員会を集中的に開催し、『「道の駅」第3ステージ 中間レビューと今後の方向性』をとりまとめました。

1. 今回のとりまとめのポイント

○ ここまでの「道の駅」施策の中間レビュー

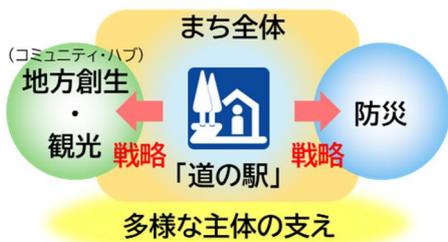
「道の駅」が有する地方創生・観光の拠点機能と防災拠点機能に焦点をあてて、これまでの「道の駅」施策についての中間レビューが行われ、『時代に合わせた柔軟な「道の駅」の活用が必要』、『災害時に国の意志が反映できる体制強化が必要』との考えが示されました。

○ 「道の駅」第3ステージの姿

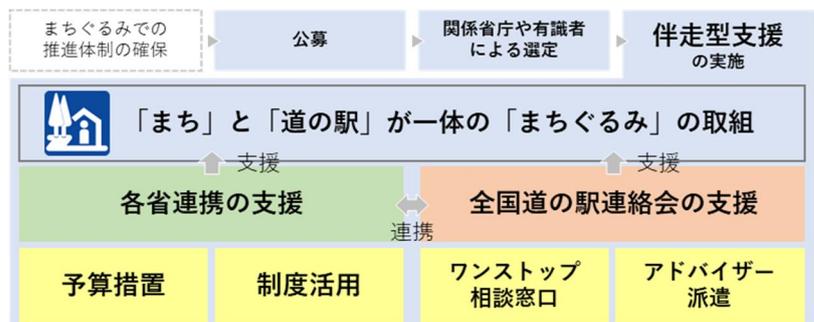
「道の駅」第3ステージとは「まち」と「道の駅」が一体で戦略的に連携してコンセプトの実現を成し遂げる取組と定義し、目指す姿として新たに『「道の駅」単体からまちぐるみの戦略的な取組へ』が掲げられました。

○ 今後の方向性 ～第3ステージを応援するための取組～

第3ステージ推進のため各省と全国道の駅連絡会が連携し、まちぐるみで戦略的に取り組む自治体と「道の駅」を応援する支援制度についての提案が行われました。



「道の駅」第3ステージ概念図



新たな支援制度のイメージ図

2. 「道の駅」第3ステージ推進委員会 委員名簿

- 別紙1のとおり

3. 『中間レビューと今後の方向性』の公表について

- 本冊子は国土交通省ホームページ（以下）にて公表しております。

【「道の駅」第3ステージ 中間レビューと今後の方向性（概要）】※別紙2のとおり
https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/pdf/matome_gaiyou.pdf



【「道の駅」第3ステージ 中間レビューと今後の方向性（本編）】
https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/pdf/matome_sasshi.pdf



<問い合わせ先>

道路局 企画課 評価室 高濱・守田（内線：37552、37558）

代表 (03) 5253-8111 直通 (03) 5253-8593

「道の駅」第3ステージ推進委員会 委員名簿

【有識者】

◎筑波大学 名誉教授	石田 東生
國學院大學 観光まちづくり学部 教授	楓 千里
一般社団法人 危機管理教育研究所 代表	国崎 信江
跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 准教授	篠原 靖
政策研究大学院大学 客員教授	徳山 日出男
マックス・プランク研究所 研究員	豊田 三佳
宮崎大学 地域資源創成学部 教授	根岸 裕孝
NPO法人 日本風景街道コミュニティ 理事	
一般社団法人 シーニックバイウェイ支援センター代表理事	原 文宏
一般社団法人 日本経済団体連合会 産業政策本部長	堀内 保潔
比治山大学 現代文化学部 教授	山田 知子

【行政機関】

内閣官房 デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 参事官
 内閣府 地方創生推進事務局 参事官
 観光庁 外客受入担当参事官
 観光庁 観光地域振興部 観光地域振興課長
 観光庁 国際観光部 国際観光課長

【オブザーバー】

一般社団法人 全国道の駅連絡会 理事
 こども家庭庁長官官房参事官（総合政策担当）

◎：委員長
 （敬称略・五十音順）



「道の駅」第3ステージ 中間レビューと今後の方向性 概要

別紙2

「道の駅」第3ステージ推進委員会 令和6年7月

I | 背景

○第3ステージ開始以後に生じている社会情勢の変化や、政府計画への「道の駅」の位置づけ内容への対応が必要

新型コロナウイルス感染症 / 能登半島地震 / 物流の2024年問題 等
2040道路ビジョン / 国土形成計画 / WISENET2050 等



II | ここまでの「道の駅」施策の中間レビュー (全体の底上げに向けて)

地方創生・観光の拠点機能

(時代への適合 / 多様な地域ニーズへの対応)

- ・リニューアル需要の高まり
- ・物流の2024年問題やドローン配送など社会課題への対応
- ・車中泊ニーズへの対応
- ・時代に合わない施設配置や施設構成への対応
- ・現場ごとに多様な個別的課題への対応

時代に合わせた柔軟な「道の駅」の活用が必要

具体的な取組

- 施設配置の自由度を高める運用や制度の見直し
- 時代に合わせた『「道の駅」登録・案内要綱』の見直し

防災拠点機能

(能登半島地震で得られた教訓や課題)

- ・広域的支援や高付加価値コンテナ活用の有効性
- ・「防災道の駅」や高付加価値コンテナの数的不足
- ・高付加価値コンテナの手配や輸送の滞り
- ・「防災道の駅」以外の「道の駅」の脆弱性
- ・拠点として活用する際の機動性の低さ

災害時に国の意志が反映できる体制強化が必要

具体的な取組

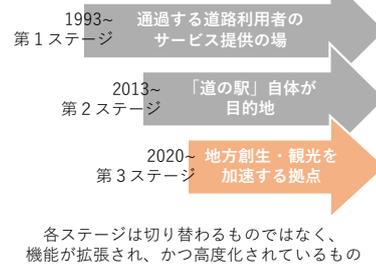
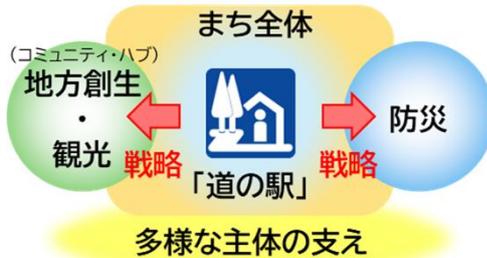
- 戦略的な「防災道の駅」の配置と追加選定
- 災害時に国が迅速に「道の駅」を活用し支援を行う仕組みの構築

III | 「道の駅」第3ステージの姿

「道の駅」単体から
まちぐるみの戦略的な取組へ

「道の駅」第3ステージとは

「まち」と「道の駅」が一体で戦略的に連携して
コンセプトの実現を成し遂げる取組



IV | 今後の方向性 ~ 第3ステージを応援するための取組 ~ (第3ステージの突き抜けに向けて)

○まちぐるみで戦略的に取り組む自治体と「道の駅」を応援するための仕組みを新たに提案

第3ステージ実現のために (モデルプロジェクトの知見)

顧客視点での分析

まちぐるみの議論

地域価値の再定義

第3ステージ
実現

国・連絡会
による支援

戦略的な「しかけ」の実施

【茂木町の事例】

地元客 → 平日 朝~夕
来訪者 → 休日 昼
web検索・位置情報を活用した
本格的なマーケティング分析



多様な主体の垣根を越えた体制により
従来の「道の駅」の枠を超えるアイデアを実践



「道の駅」の新たなコンセプトを
茂木町自体のコンセプトとして更新

リニューアルを契機に

「道の駅」空間で
「まち」を体現

- ・移住相談窓口などの役場機能
- ・まちの魅力を発信する場
などを「道の駅」に設置するこ
とを検討

(第3ステージの実現に向けて)

○まちぐるみで地域の価値を再定義し、来訪者だけでなく、その地域に住む人にとっても幸せを感じられ、持続可能な仕組みであること

(仮称)「道の駅」第3ステージ応援パッケージ

○第3ステージを強力に推進する意志を持つ「道の駅」に対し、中央官庁横断体制での重点的な支援や、専門家等のアドバイザー派遣など、国による新たな支援の枠組みを創設

まちぐるみでの
推進体制の確保

公募

関係省庁や有識者
による選定

伴走型支援
の実施



「まち」と「道の駅」が一体の「まちぐるみ」の取組

各省連携の支援

全国道の駅連絡会の支援※

予算措置

制度活用

ワンストップ
相談窓口

アドバイザー
派遣

※支援強化に必要となる全国道の駅連絡会の体制強化もあわせて推進